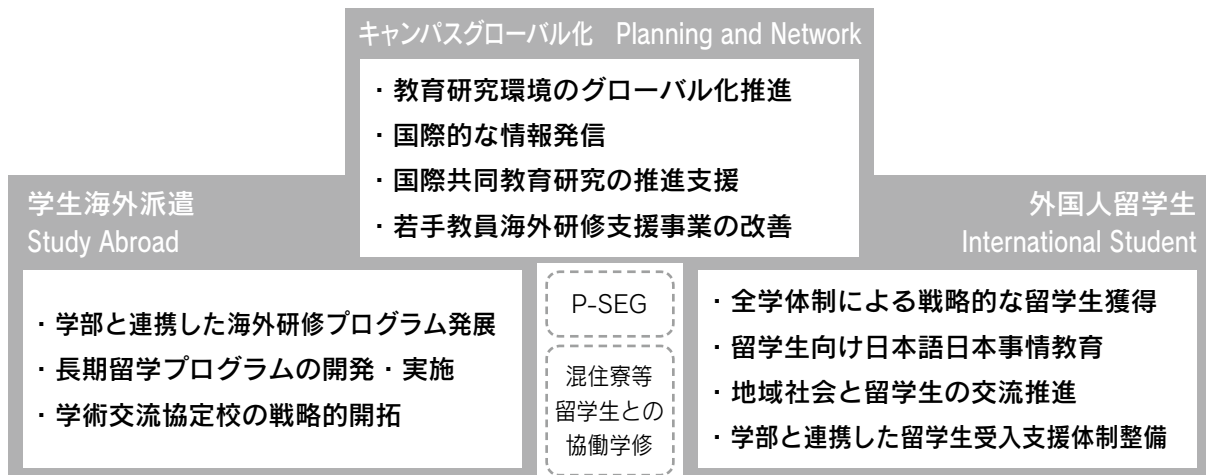


グローバルセンター

平成30年度 グローバルセンター活動報告

1. グローバルセンターについて

●3部門概要



●教員

センター長

馬場 昌範

CPグローバル化	Planning and Network	学生海外派遣	Study Abroad	外国人留学生	International Student
教授	中谷 純江	教授	畝田谷 桂子	教授	和田 礼子
特任講師	福富 渉	特任准教授	森田 豊子	講師	市島 佑起子

2. 平成30年度の活動内容

2-1. 平成30年度グローバルセンター運営委員会

(1) 主な審議事項

A. 教務・教育プログラム運営

大学の世界展開力強化事業／日本語日本文化研修留学生プログラム  
Study Japan Program 開設科目と修了要件（前後期）／修了認定（前後期）

B. 学生受入・派遣

鹿大「進取の精神」支援基金事業（留学生受入推進事業の募集・選考等）  
学生の海外渡航に関する危機管理対応

C. 雇用・管理

特任教員の補充・雇用継続／平成29年度決算／平成30年度予算／GIC 働き方モデル  
鹿大「進取の精神」支援基金予算／平成30年度・平成31年度非常勤講師雇用計画

(2) 開催日程

\*はメール会議

回数	1	2	3	4*	5*	6	7	8*	9*	10	11
日程 (始)	平成 30 年										
(至)	4/17	5/15	7/17	7/31 8/3	8/21 8/27	9/18	10/16	10/24 10/30	11/8	11/19	12/18

回数	12*	13*	14*	15*	16*	17*
日程 (始)	平成 31 年					
(至)	1/8	1/8	2/1	2/8	2/18	2/28
	1/9	1/9	2/6	2/14		3/5

2-2. 平成30年度グローバルセンター教育関連事業（概要報告）

本節では、グローバルセンターが実施している事業の中から、特に学生教育を中心に概要を報告する。

(1) 学生海外派遣

(1a) 日本人学生の海外派遣実績

「進取の精神グローバル人材育成プログラム（P-SEG）」と、鹿大「進取の精神」支援基金事業の一体的運営による地域活性化に資するグローバル人材の育成を目指し、同基金によって学生海外派遣事業参加の123名に経済支援を実施した。また、大学独自の支援として、海外派遣学生に「鹿児島大学学生海外研修支援事業」「鹿児島大学学生海外留学支援事業」「鹿児島大学学生海外学会発表支援事業」による経済支援を継続して実施したほか、外部資金である JASSO 海外留学支援制度に応募し採択された海外研修及び協定校派遣10プログラムの参加者（奨学金総支給額2,696万円）に経済支援を行った。以上の様な取組の結果、平成30年度の学生海外派遣数は314名となり、昨年度に比べ6.8%増加した。さらに、稲盛和夫基金を原資として、令和元年9月から英国ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）に修士課程又は博士課程の学生を1年間派遣する「鹿児島大学21世紀版薩摩藩英国留学生派遣事業『UCL 稲盛留学生』」を新設し、候補者1名を選出した。

(1b) 海外留学啓発活動・指導

留学を希望する学生に対する情報提供機会として「派遣留学説明会」「清華大学留学説明会」「トビタテ！留学 JAPAN 応募説明会」を年5回開催した（303名参加）。さらに、「トビタテ！留学 JAPAN」プログラム採択者増に向けた応募者指導を実施し、本年度（9.10期）採択者を7名輩出して第1期～10期採択者総数が50名となり、合格実績のある国立大学78校のうち19位となった。加えて、循環型留学啓発教育では、グローバルランゲージスペースにて留学体験発表と後輩への啓発を目的とする「伝えよう！私の海外体験」を6回（103名参加）、個別留学相談（34名参加）を実施した。また、留学帰国生による、学生海外派遣部門HPの留学体験談サイト「伝えよう！鹿大生の海外体験」への報告と留学情報を記入するファクトシートの掲載も継続して行った。

(2) 日本人・留学生の協働学修

外国人留学生と日本人学生の協働学修を行うグローバルランゲージスペースの活動として、昼休みの活動（English Speaking Lunch Table 等、前後期各 5 言語）に延べ927名、週 1 回のグループ学修「グロスペ外国語」（前期 7 言語、後期 8 言語）に267名（延べ2,670名）、International Quiz Night（英語クイズ年 2 回）37名の参加があった。English Speaking Lunch Table 等およびグロスペ外国語に対して事後検証として参加者アンケートを実施した結果、両企画とも意義を認める回答が多数得られた。

(3) 外国人留学生受入

(3a) 外国人留学生受入状況・教育体制

外国人留学生対象“Study Japan Program”では、受講生が多様な科目を履修できるよう開講時間変更等で充実を図り、年間受講者総数は延べ713名に増加した。また、昨年度新設された鹿大「進取の精神」支援基金留学生受入推進事業「鹿児島日本語・日本文化研修プログラム」にて留学生 5 名、「研究留学生受入プログラム」にて 9 名を受け入れた。さらに、半年以内のプログラムで海外連携校の学生を受け入れ、オンライン授業により連携校の学生に単位を出すための仕組み作りとして、「鹿児島大学遠隔特別聴講学生に関する要項」制定に取り組んだ。

共通教育改革による必修科目初年次セミナーの学修内容改定を踏まえ、外国人留学生必修科目である日本語・日本事情科目を再構築した。

(3b) 外国人留学生受入体制の充実

新たに留学生向け学研災付帯海外保険の加入手続き補助を行うなど、外国人留学生をサポートする「留学生受け入れサポートデスク」の充実を図った。また、経済的支援として、鹿大「進取の精神」支援基金留学生受入推進事業の「鹿児島日本語・日本文化研修プログラム（学部留学生対象）」および「研究留学生受入プログラム」にて14名を支援した。さらに、大学独自の奨学金として「留学生後援会奨学金（14名）」「種村完司奨学金（5名）」、「外国人留学生民間宿舍費助成事業（59名）」を継続して給付した。加えて、新規留学生獲得のため、国内 3 件の進学説明会及び海外 3 か国 4 件の留学フェアに参加した（対応者合計270名）。さらには、留学生の住環境整備のため国際交流会館 1 号館の改修を行ったほか、鹿児島市消防局と連携した国際交流会館での避難訓練を継続して実施するなど、留学生の受入体制支援を多角的に進めた。

(4) 国際的な情報発信

本学の情報を英語によって国際発信する機関誌“KU Today”の2018秋号（No.16）および2019春号（No.17）を発行した。No.16の特集は医学部、No.17の特集は農学部となった。それぞれ4,000部ずつ発行し、平成31年8月に海外協定校及び関係機関へ送付予定である。

【大学ホームページ（英語版）KU Today】<https://www.kagoshima-u.ac.jp/en/about/newsletter.html>

**(5) 国際共同教育研究の推進支援**

文科省「大学の世界展開力強化事業」に採択され、令和5年3月まで5年間の国際教育プロジェクトを開始した。平成30年度は、本プロジェクトによりアメリカおよびアジアの連携大学へ29名の学生を派遣し、44名の学生を受け入れた。また、「鹿児島大学若手教員海外研修支援事業」で教員2名、鹿大「進取の精神」支援基金若手研究者支援事業で教員2名、「鹿児島大学若手教員海外語学研修支援事業」で教員6名に派遣支援を行った。

**(6) 鹿大「進取の精神」支援基金事業**

寄附金を原資とする同基金事業の実施報告として、「鹿大『進取の精神』支援基金 学生海外派遣事業 留学生受入推進事業 若手研究者支援事業 平成29年度事業報告書」を平成30年7月に刊行し、同基金を支援する目的で設立された鹿児島大学「鹿大『進取の精神』支援基金」支援会役員をはじめ関係各団体、企業に贈呈した。また、平成29年度事業報告によって事業の周知を図り、その進め方やグローバルな視点による地域貢献の可能性と今後の課題等について議論し事業改善に資することを目的に、第3回鹿児島大学グローバルセンターシンポジウム「鹿大『進取の精神』支援基金 学生海外派遣事業 留学生受入推進事業 若手研究者支援事業 平成29年度事業報告と今後の展望」を平成30年7月9日に開催し、学内外から86名が参加した。

以上











## グローバルセンター

## スタッフ紹介

**畝田谷 桂子（グローバルセンター長 学生海外派遣部門 学長補佐（国際企画推進担当） 教授）**

平成31年4月より、グローバルセンター長を拝命しました。初代の鈴木センター長、続く馬場センター長から多くのことを学ばせて頂きました。微力ではありますが、各部局の教職員のご協力を賜りながら、センター教員および国際事業課職員の方々と力を合わせ、グローバル化に必要な体制の整備や日本人学生と外国人留学生の交流を促進するとともに、様々な海外活動の機会への周知をさらに進め、個々の学生が最適な選択ができるよう努めて参りたいと存じます。日本語学、日本語教育、異文化間コミュニケーションを専門としております。引き続き、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

**和田 礼子（グローバルセンター・外国人留学生部門 教授）**

専門は日本語教育です。学部留学生を対象とした共通教育の日本語科目の他、交換留学生や研究生、大学院生を対象とした日本語クラスで外国人留学生に日本語を教えています。鹿児島大学には325名の留学生が在籍しています。自然な形で日本人学生と留学生が語り合える大学になればと思います。

**中谷 純江（グローバルセンター・キャンパスグローバル化部門 北米教育研究センター長 教授）**

教育研究の国際化を推進するための体制整備や国際プロジェクトの企画運営などを担当しています。大学のグローバル化は、全学が連携して取り組む必要があるとともに、地域との連携が重要な課題です。学部間や、そして地域とをつなぐ役割を果たせるように務めます。専門は社会人類学、インド社会を主な研究対象にしています。近年は、近代化やグローバル化が家族や親族の形をどのように変化させるのか、どのように地域社会は維持されるのかをテーマに喜界島やミクロネシアの島でも調査を行っています。

**市島 佑起子（グローバルセンター・外国人留学生部門 講師）**

現在、共通教育日本語科目、留学生を対象とした日本語・日本文化学修プログラム（Study Japan Program）を主に担当しています。以前は中国・韓国の大学で日本語を教えておりましたが、鹿児島大学に着任してより多様な学生達と関わる機会が増えたと感じます。異なる背景を持つ学生達が、互いを尊重し、共に学びを深められる環境づくりに少しでも貢献できたらと思っています。

**森田 豊子（グローバルセンター・学生海外派遣部門 特任准教授）**

平成28年にグローバルセンターに赴任いたしました。P-SEG 短期海外研修（台湾、イラン）および学生海外派遣（協定校留学派遣、トビタテ！ JAPAN 留学派遣等）を担当しています。自身の専門は国際関係論および中東地域研究（特にイランの家族法、子どもの権利）です。鹿児島大学では平成14年から非常勤講師として、平成28年からは現職で「世界の中のイスラーム」を担当

しています。鹿児島地域の多文化共生、ムスリム対応にも取り組みたいと考えています。

**福富 渉（グローバルセンター・キャンパスグローバル化部門 特任講師）**

タイ語翻訳者として仕事をしていましたが、平成29年に鹿児島大学に着任いたしました。P-SEG プログラムの海外研修科目（タイ研修・シンガポール研修）、英文広報誌 KU Today の編集や、SNS の運用などを担当しております。タイの現代文学を専門に研究しておりまして、文芸作品の日本語訳などもおこなっています。鹿児島大学の学生のみなさんがご自身の世界を拓いていく学びの、お手伝いできればと思っております。

**本田 敏幸（国際事業課 課長）**

国際事業課は、鹿児島大学の国際化推進のための事務組織です。平成29年度にグローバルセンターが総合教育機構に編成されたことにより旧研究国際部から学生部へ改組となりました。現在、職員16名の体制で、国際事業や留学生等に係る業務を行っています。今後も平成29年度に策定された「鹿児島大学国際化の基本方針」をベースにグローバルセンターと連携をとり、更なる本学の国際化に向けて取り組んでまいります。